

## 国語 (その一)

**第一問** 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

問題文は、著作権者の許可が得られた後に掲載します。

国語 (その二)

問題文は、著作権者の許可が得られた後に掲載します。

国語 (その三)

問題文は、著作権者の許可が得られた後に掲載します。

(河原和枝「鈴木三重吉・『赤い鳥』と童心主義」による)

※ 問題作成上の都合で、原文の一部に手を加えてあります。

## 国語 (その四)

問一 傍線部 A 『赤い鳥』とあるが、『赤い鳥』に登場する「良い子」たちは、どのような「良い子」たちなのか。その説明を行った次の文の空欄に入るように、五十字以内(句読点なども字数に含む)で答えなさい。

「良い子」たち。

問二 傍線部 B 「弱さへの感受性がたいへん強い」とあるが、『赤い鳥』はなぜ弱さを描こうとしたのか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 大正期の日本では、近代化を達成し、階級闘争による社会変革の気運が非常に盛り上がったから。
- ② 大正期の日本では、人々は物事に感じやすく、文化により感情を慰めようとする面を持っていたから。
- ③ 大正期の日本では、理想主義的運動の挫折や失敗があったことで、宗教ブームが起こっていたから。
- ④ 大正期の日本では、弱さと強さの価値が逆転していたために、弱さの中に強さを見出していたから。
- ⑤ 大正期の日本では、人々は弱さに悲哀を見るのではなく、強者にはない独自の価値を求めていたから。

問三 傍線部 C 「センチメンタリズム」とあるが、これはどういう意味か。本文中から六字で抜き出して答えなさい。

問四 空欄イに入れるのに最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 金字塔
- ② 羅針盤
- ③ 処方箋
- ④ 合言葉
- ⑤ 御題目<sup>お</sup>

## 国語 (その五)

問五 傍線部D『無垢』の観念」とあるが、当時の作家や詩人たちがこの観念を描こうとしたのはなぜか。その説明を行った次の文の空欄に入れるのに最も適切な部分を、本文中から十八字で抜き出して答えなさい。

から。

問六 に入る、次のア～エの四つの文の正しい並べ方として最も適切なものを、後の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ア その時の大人の魂と、子供の魂とは決して差別的ではありません。
- イ ……童話は大人が児童に与へるために創作すべきものではなく、人類の持つてゐる「永遠の子供」のために創作さるべきものであると思ひます。
- ウ 童話の中に現はされた思想とその世界は、大人の理想の世界であると見ることも出来ます。
- エ そしてその世界に於てのみ子供と大人が「一つのもの」になり得るのです。

- ① イ→ア→エ→ウ      ② イ→エ→ウ→ア      ③ ウ→ア→エ→イ
- ④ ウ→イ→ア→エ      ⑤ ウ→エ→ア→イ

問七 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 子どもの読み物には、さまざまな〈子ども〉のイメージが描かれているものの、そのイメージは紋切り型である。
- ② 「一房の葡萄」を書いた有島武郎は、理想の実現に向けて積極的に行動を起こした、大正期の児童文学者であった。
- ③ 『赤い鳥』では、「良い子」「弱い子」「純粋な子」のいずれかをテーマとして物語を創作しなくてはならなかった。
- ④ プロレタリア文化運動のなかで、小川未明は、弱者を生み出す社会構造の問題を解決することに成功していた。
- ⑤ 理念的にはなく現実の子どもたちの生き生きした姿を捉えた北原白秋は、童心主義の作家とは少し違っていた。

## 国語 (その六)

第二問 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

問題文は、著作権者の許可が得られた後に掲載します。

国語 (その七)

問題文は、著作権者の許可が得られた後に掲載します。

## 国語 (その八)

問題文は、著作権者の許可が得られた後に掲載します。

(吉井仁実『問い』から始めるアート思考』による)

※ 問題作成上の都合で、原文の一部に手を加えています。

問一 傍線部①～④のカタカナを漢字で書きなさい。

問二 傍線部A「アート思考」とあるが、これを筆者はどのようなことだと捉えているのか。本文中から二十一字で抜き出して答えなさい。

問三 空欄イに入れるのに最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 画期的
- ② 主体的
- ③ 原理的
- ④ 倫理的
- ⑤ 普遍的

問四 傍線部B「イノベーション」とあるが、この言葉の意味として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 産業革命
- ② 経済発展
- ③ 技術革新
- ④ 市場開放
- ⑤ 情報発信

問五 次の一文を挿入する場所として最も適切なものを、後の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

問題解決から始まる何かではなく、今の社会や私たちに対する「問い」から生まれた  
何かがそこにはあった。

- ① 【I】
- ② 【II】
- ③ 【III】
- ④ 【IV】
- ⑤ 【V】



## 国語 (その九)

問六 傍線部C「アートに触れる意味」とあるが、アートに触れることには、どのような意味があると筆者は述べているか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 感性に磨きをかけ人間らしさを発揮することによって、コンピューターを凌駕するりようがことができるという意味。
- ② いままでとは異なる思考方法を身につけることによって、功利的な生き方をするることができるという意味。
- ③ 物事を合理的に考えたり、処理したりすることによって、効率的に仕事をこなすことができるという意味。
- ④ 答えが存在していない「問い」に触発されることによって、新しい何かを生み出すことができるという意味。
- ⑤ 自分にしかできないことが分かることによって、これまでの生活や仕事を見直すことができるという意味。

問七 空欄口には、「感染症の世界的な大流行」を意味する言葉が入る。カタカナ六字で答えなさい。

問八 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 鑑賞者が作品に向き合うときは、自らの内面にある「問い」を投げかけながら作品を理解しなければならない。
- ② アートにとって重要なのは、感性であって思考ではないので、「アート思考」という言葉は逆説的表現である。
- ③ 常に新しい思考を生み出し続けるのがアートであり、一時代を築いた思考も次の新しい思考に取って代わられる。
- ④ ビジネスや金融にとって役に立つ情報は、テレビではなくアートから手に入れることができるのが現代である。
- ⑤ アップル社のスマートフォンはAIを駆使した最先端の機能を搭載しているので、多くのシェアを占めている。

## 国語 (その十)

**第三問** 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

問題文は、著作権者の許可が得られた後に掲載します。

国語 (その十一)

問題文は、著作権者の許可が得られた後に掲載します。

## 国語 (その十二)

問題文は、著作権者の許可が得られた後に掲載します。

(永田希『再読だけが創造的な読書術である』による)

※ 問題作成上の都合で、原文の一部に手を加えてあります。

問一 傍線部①～④のカタカナを漢字で書きなさい。

問二 傍線部A「児童文学の巨匠ミヒヤエル・エンデの傑作『モモ』とあるが、エンデは『モモ』で何を描いたと筆者は考えているのか。本文中から三十六字で抜き出して答えなさい。

問三 空欄イ、口に入れるのに最も適切なものを、次の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

- ① さらに      ② まして      ③ むしろ      ④ したがって      ⑤ しかし

問四 傍線部B「詭弁」とあるが、この言葉の意味として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 根拠もないのに絶対的なものだと思んが信じている論  
② 対立や矛盾を克服することで高次へと発展させる論  
③ 他の事柄にかこつけて社会や人物を遠回しに批判する論  
④ 道理に合わないことをいかにももっともらしくこじつける論  
⑤ 現実からあまりにかけ離れていて実現が難しそうな論

## 国語 (その十三)

問五 傍線部C「時間は誰にでも平等に与えられている」とあるが、筆者は時間をどのように捉えているのか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 時間の中には数値化できないあいまいなものがあり、そのような時間を排して、平等に時間は与えられるべきである。
- ② 時間は時計によって計れるものと計れないものがあり、平等に与えられている前者のみを使って人々は生活している。
- ③ 客観的な時間は絶対的なもので、主観的な時間は相対的なものであり、この二つの時間を比較することなどできない。
- ④ 時間は客観的な時間と主観的な時間の二つの時間があるが、主観的な時間の方は誰にでも与えられるものではない。
- ⑤ 客観的な時間は平等に与えられていても、その時間をどのように生きるのかによって時間は均質なものではなくなる。

問六 傍線部D「にわか」とあるが、この言葉の対義語として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① いたずらに
- ② つねに
- ③ おもむろに
- ④ しきりに
- ⑤ またたく間に

問七 空欄甲に入れるのに最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① ヤリダマに挙げ
- ② ケムに巻き
- ③ シガにもかけず
- ④ キロに立たせ
- ⑤ ナラクの底に沈め

## 国語 (その十四)

問八 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 仕事や読書をすることは、人間にとって大事な時間を無駄に過ごしているとしか考えることができない営みである。
- ② ショーペンハウアーの時代は、悪質な本ばかりが流通していたため、本を読まずに自分の頭で考えろと彼は唱えた。
- ③ 生活から余裕が失われがちな現代人にとり、自分の頭を使って考え、自分と向き合う時間を持つことが大切である。
- ④ 読書に没頭してしまい、気がついたら夜が明けていたということもあるが、そこには喜びはなく虚しさ<sup>むな</sup>だけがある。
- ⑤ 生活のためにやむなく時間を売り渡してしまっても、それに見合うだけの対価を手にすることができれば諦めもつく。